

終章 資本主義の段階変化と現代資本主義

第1節 競争段階の景気循環 ―＜生産と消費の矛盾＞の累積・爆発の過程

＜生産と消費の矛盾＞；資本主義においては、直接的生産者＝労働者は、自らの労働によって生み出した新たな価値の一部しか獲得できず、残りの剰余価値の処分・利用に関する決定権を持たない。資本は最大限の価値増殖を求めて生産を無制限的に拡大しようという欲求を常にもつが、剰余価値はより多くの剰余価値が獲得されうる場合にのみ再投下され、労働者の消費は生存費という狭隘な範囲に制限されている。一方での生産の無制限的拡大傾向と他方での労働者の消費制限という矛盾＝＜生産と消費の矛盾＞が存在しているのである。

(1) 回復過程

① 市場停滞下での個別資本の行動

新生産方法の_____導入⇒生産力の上昇

⇒特別剰余価値の獲得という強いインセンティブ

新生産方法は

{ 一般に生産規模を_____させる傾向
導入した資本＝費用低下⇒若干の安売りによる販売量の増大

⇒価格のいっそうの_____

⇒旧生産方法の資本に対して新生産方法の導入を_____する競争の作用

② 新生産方法導入による更新・新投資の群生

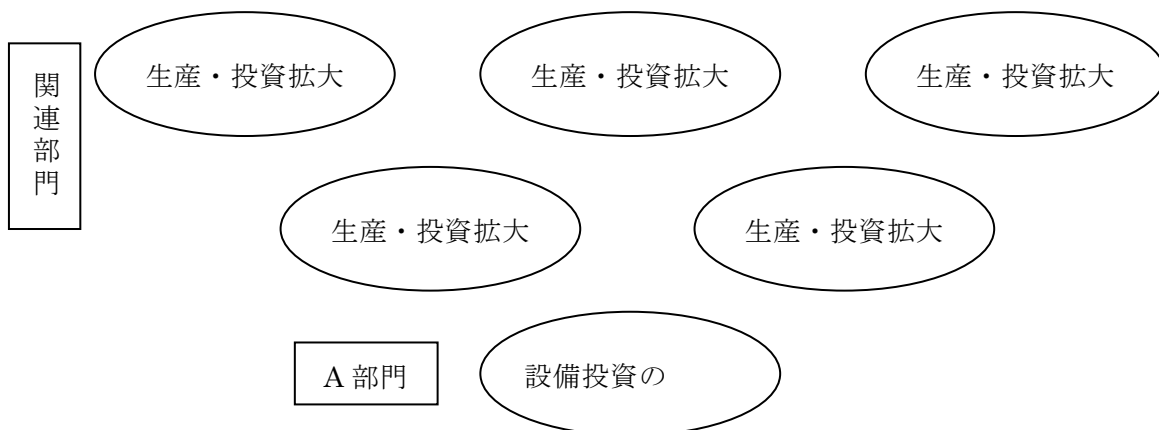
{ 画期的な新生産方法⇒既存設備の更新時期を_____作用
新生産方法による価格の顕著な低下⇒導入した資本の急速な販売増大⇒_____

⇒固定資本投下を含む更新・新投資の群的発生

投資の群生が一定規模以上になると⇒関連部門への群的な需要の_____

⇒_____部門の不均衡的拡大を惹起

設備投資の群生と関連部門への波及



設備投資の群生と関連部門での生産・投資拡大

⇒相互_____効果による市場の全般的拡大

(2) 好況過程＝I部門の不均等的拡大の進展

① 好況の出現—＜生産と消費の矛盾＞の累積

(a) 生産・投資増大と市場拡大の相互促進的進展

I部門の不均等的拡大

⇒I部門を中心とする市場_____

＝市場価格の上昇，利潤率上昇・利潤量の増加

⇒率先的・積極的な生産・投資拡大⇒より大量の利潤の獲得

{ 資本の積極的な投資行動
I部門の不均等的拡大メカニズム

⇒I部門内転態部分を中心とする生産・投資拡大の相互促進的・相互誘発的進展

(b) 雇用増大・消費需要増大

I部門の不均等的拡大⇒

{ _____増大⇒労働者の消費需要増大
利潤増大⇒資本家の消費拡大

⇒II部門への需要増大

⇒II部門の生産・投資拡大

⇒I部門の不均等的拡大の_____

労働者1人あたりの消費増大メカニズム＝消費から相対的に_____した

I部門を中心とする生産・投資の増大＝工場増設のための工場の増設

⇒＜生産と消費の矛盾＞の_____

② 好況過程の進展—＜生産と消費の矛盾＞の成熟

I部門の不均等的拡大の進展

⇒_____率の上昇＝急速な拡大再生産が可能⇔急速な投資拡大＝成長率上昇が継続しなければ？

⇒膨大な余剰生産手段が_____となる可能性



(a) 固定資本の存在と I 部門の需給関係

i) 固定資本の回転の特殊性

設備投資時に巨額の資金が一举に投下⇒巨額の_____の発生

⇒ I 部門の不均等的拡大の持続

設備投資後⇒価値移転=_____のみ

耐用年数終了=更新時期まで需要_____

ii) 更新投資と新投資；需要効果と供給効果

更新投資=_____効果のみ。供給は増加させない

新投資 = _____効果と _____増大効果

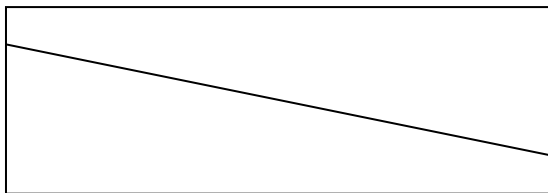
iii) 好況過程の進展と更新・新投資

好況過程の進展

⇒更新投資の急速な_____

⇒余剰生産手段の吸収は_____の増大に依存

好況過程の進展と更新・新投資額の比率の変化



* 新投資は_____増大効果

⇒生産手段の価格上昇率の_____

⇒ I 部門の投資の有利性が_____する可能性大

(b) 資本の投資行動の変化—新投資と既存設備上での生産

生産手段の価格上昇率が鈍化した状況で

生産手段の需給関係に若干でも悪化が生じると？

(きっかけ：消費需要増大の頭打ち，ボトル・ネック，利子率の上昇，賃金率の上昇・・・)

i) 新投資

巨額の固定資本投下=回収には長期間が必要

市場条件の悪化⇒投下資本の回収_____の予想

⇒新投資に対する資本の投資行動は一举に_____なものとなる

⇔市場が停滞から拡大へ動く場合

ii) 既存設備上での生産

市場条件の悪化

⇒既存設備への投下資本の回収_____の予想

⇒投下済み資本の_____回収の必要性

個別資本にとっての合理的行動

→ { 労働時間の_____・労働強度の_____
更新時期となった生産設備の更新_____

⇒最大限の生産・販売拡大の追及

iii) 個別資本の合理的行動と総資本としての合理的行動

{ 新投資の_____と設備更新の_____⇒生産手段需要増加率の_____
既存設備上での生産_____⇒供給総量の_____

市場条件のいっそうの_____

合成の誤謬：ミクロ(個人・個別企業)レベルでは合理的な行動でも、それらが合成されたマクロ(経済全体)レベルでは正反対の結果をもたらす不合理な行動となること

(c) <生産と消費の矛盾>の成熟

増大する余剰生産手段を十分に吸収できるだけの_____需要が期待できない

⇒需給関係の悪化を抑制できるのは消費需要

i) 労働者の消費需要増大の可能性

労働者の消費需要の顕著な増加

⇒_____部門の生産・投資拡大

⇒余剰生産手段の吸収

労働者の賃金の顕著な上昇

投資需要の減少 → 労働者の賃金上昇？

⇔もし実質賃金が顕著に上昇すれば

⇒賃金コスト上昇＝利潤の_____⇒投資意欲の_____

ii) 資本家の消費需要増大の可能性

投資需要の減少に対応して、資本家の消費需要を自動的に増加させるメカニズムは_____

⇔需給悪化の予想→資本家は消費抑制・貯蓄増加

⇒膨大化した余剰生産手段を吸収していくための_____需要も_____需要も不十分な状況

* 労働者の制限された消費に対して過剰な蓄積・生産拡大の限界

(3) 恐慌—＜矛盾＞の一時的・暴力的解決

① 過剰生産恐慌

{ 生産・生産能力の過剰の表面化
価格と利潤率の急速な低下
生産縮小・倒産の大量発生
支払い連鎖→経営状態の悪くない企業も_____
銀行の経営破綻⇒_____恐慌
⇒大量の失業者の発生⇒_____需要の減少
⇒需給関係のいっそうの悪化

② 需給不均衡の暴力的解決

過剰生産恐慌の爆発_____資本主義の消滅

恐慌の機能

⇒弱小資本の淘汰＝生産・生産能力_____
⇒過剰生産能力の_____⇒暴力的な需給関係の_____
⇒生産手段価格_____・労働者の賃金_____
⇒次の資本蓄積のための条件

③ 規則的な景気循環メカニズム

競争の支配的な資本主義においては

(a) 特別剰余価値の獲得をめぐる競争⇒生産・市場拡大の内的起動力

(b) 投資需要を媒介とした市場・生産の相互誘発的拡大メカニズム

＝不況からの自動的回復メカニズム

* 固定資本投資を基軸とし、急速な生産力の上昇メカニズムを内包する規則的な景気循環

⇒資本の_____・_____の進展

⇒市場構造の変化⇒独占的市場構造の形成

⇒ 独占資本主義段階への移行＝資本主義の理論的・歴史的段階変化